



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 大切にされた経験が、 困難を乗り越える力を生む



「子どもの居場所・なんとなくのにお」は1名が進学し、4月から継続して利用している小中学生は1名となりました。保護者、学校と連携しながらサポートを続けています。「居場所」の情報を家庭に届けるため、チラシを新たに作成し、5月の日光市校長会で配布。市内の全小中学生に配布しました。現在、数件の問い合わせや学校からの連絡があり、保護者と連絡を取っています。

「居場所」には小中学生だけでなく、思春期の悩みや不安を抱えた若者が訪れ、相談や話し相手としてスタッフが対応しています。若者たちに接し、「誰でも気兼ねなく訪問できる場所」の大切さを痛感したと話すスタッフがいました。気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごすことのできる「居場所」には、決まったカリキュラムも時間割も、はっきりした目標もありません。けれど、報徳会館を訪れた子どもや若者が、偶然の出会い、イベント、遊びなどをきっかけに、変化し、成長していくことを私たちは見てきました。このような「居場所の力」は、いったいどこからやってくるのか、「社会教育」の分野でも近年、大きなテーマになっているそうです。

5月の定期総会のあいさつ文に、「周囲のおとなたちから大切にされた経験が、困難を乗り越える力を生む」と書きました。4月頃のテレビ番組で、ある社会学者が自分の生い立ちを語った中での言葉です。生きていく上で

出会うさまざまな困難に、性急な解決を求めず、矛盾に向き合う力の必要性を説いた文脈中で話されたこの言葉には、希望が込められていると思います。「大切にすること」を難しく議論すると、いろいろな意見があるでしょうが、私たちは、子どもに寄り添い、子どもに信頼される「居場所」を作り出すことによってメッセージを発信していきたいと考えています。  
(手塚)

## 第3回 定期総会報告

5月12日(土)、第3回定期総会が支援センターで行われました。参加者から、(1)今年度の活動に関して、発達障がいサポートに関する行政との連携事業の提案、(2)「居場所」の認知度を上げるため、不登校の子を持つ親の電話相談等、アクセスしやすくする工夫を考えてほしいなどのご意見をいただきました。総会でなされた議論は、今後の会の運営に生かしていきたいと思います。

任期満了により河又尚志さんが退任されました。河又さんは、成立時から本会の理事として関わられました。今後とも会への協力、助言をよろしくお願いいたします。

新任および重任された理事、監事は次のとおりです。

任期は定款により、2009年6月までとなります。

理事：白井佐智子、手塚郁夫、中島守(新任)、西尾敬子、沼尾理奈子、村上幸子、吉成啓子、吉成勇一(新任)

監事：金谷真奈美

拡大理事会+しゃみ漫画のお知らせ：3ページ

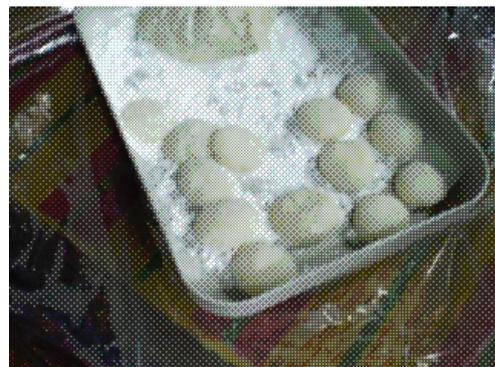
### 目次

第3回定期総会を終えて	1
イベントレポート	2
活動日誌	3
拡大理事会のお知らせ	3
発達障がい支援者連絡会	3
こんな本はいかが？(1)	4

### 居場所のひとこま

■5月はじめ、居場所「卒業生」の進学祝いに、スタッフと若者スタッフがおもちを作り、きなこをつけてたべました。

■暑い夏でした。報徳会館は涼しい風が吹き抜け、扇風機とうちわで過ごすことができました。日本の家はもともと「夏向き」にできているのですね。



# イベント

## 5月3日 猪倉山泉福寺にてバザー

猪倉にある泉福寺のお祭り、「八十八カ所まつり」でバザーを行いました。スタッフ手作りの草もち、ケーキ、いちごゼリーなどの販売、フリーマーケットもやりました。音楽イベントもあり、にぎやかな1日でした。



## 5月26日 サイエンス・カフェ（8）

「川むしたんけん隊」（協力：今市の水を守る市民の会）日光市の明神駅近くで行川で開催。今市の水を守る市民の会・塚崎さんの指導で、川の中にいる生き物を観察しました。気温27度、水温19度、快晴。ヒゲナガカワトビケラ、モンカゲロウなど、きれいな水にすむ水生昆虫がたくさん見られました。ドジョウ、カジカ、ハヤなど魚も豊富で、カジカガエルの声を聴いたり、オタマジャクシを捕まえたり、生物相の豊かな川だということがわかりました。



## 6月16日 サイエンス・カフェ（9）「里山の蝶」

講師の葛谷健さん（自治医科大学名誉教授）の用意したスライドを見ながら季節によって形が違い、種類によって、いろいろな冬の越し方があるなど、蝶についてのいろいろなお話を聞きました。葛谷先生は100種類もの蝶を育てたことがあるそうです。蝶のすむ環境はいろいろで、幼虫のえさはあるか、成虫のえさはあるか、日当たり、日陰、草原、湿原など、それぞれ好きな環境は異っているそうです。栃木県に蝶は130種類いる。日本列島を広範囲に移動している蝶もあるなど、興味深い話でした。蝶に関する本「栃木県の蝶」、「新・栃木県の蝶」などの紹介もありました。

質問コーナーでは、

Q. どうやったらたくさん蝶をとれますか？

A. まず、道具が必要。雑木林（草地のあるところ）など、蝶がたくさんいそうな場所を見つける。

など、丁寧にお答えいただきました。



葛谷さんのお話に関き入るこどもたち。会場は報徳会館。

サイエンス・カフェのスタッフ、講師、企画を募集しています。担当：手塚(080-5514-2631)または、なんにわのメール宛ご連絡ください。

## 7月29日 JC・ナチュラルプロジェクトに参加

日光市のさまざまな団体が集まり、それぞれの持ち味を生かした企画で親子がいっしょに遊ぼうという催し。今市青年会議所が「だいや川公園」で行ったイベントです。なんにわは、ブーメラン、紙トンボを作って飛ばす遊びで参加しました。スタッフが子どもたちにブーメランや紙トンボの作り方＆飛ばし方を教えました。すごい人気で、用意した100個分の材料がお昼過ぎにはなくなってしまうので、厚紙を切り材料を作らなければとあわてているうち、雨が降り出し、雷警報で午後の部は中止になりました。



## ☆ 活動日誌

- 4月16日(月) 日光市教委へ報告書提出  
 4月23日(月) 発達障がい支援者連絡会(第15回)  
 4月28日(土) ワカモノフェスタ準備会(沼尾、吉成)  
 4月29日(日) ベリー会(吉成、沼尾)  
 5月3日(木) 泉福寺「八十八ヶ所まつり」バザーに参加  
 5月10日(木) 元気UP ナチュラル・プロジェクト2007  
 全体ミーティング(吉成、手塚)  
 5月12日(土) 第15回 理事会、第3回 定期総会  
 5月15日(火) なんにわ映画会「ハリーポッター」  
 5月18・19・20日 シャみはなが(沼尾)  
 5月20日(日) 鹿沼・二燈院(お茶つみ)(吉成)  
 5月26日(土) 川むしたんけん隊(サイエンス・カフェ8)  
 5月27日(日) ベリー会(吉成、沼尾)  
 5月28日(月) 発達障がい支援者連絡会(第16回)  
 5月29日(火) なんにわ・卓球  
 6月1日(金) 元気up ナチュラル プロジェクト2007  
 打ち合わせ会(手塚)  
 6月16日(土) 里山の蝶(サイエンス・カフェ9)  
 6月17日(日) 講演会「子ども・若者たちと精神医療」  
 石川憲彦さん(手塚)  
 6月19日(火) なんにわ・ビリヤード  
 6月23日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(吉成、沼尾)  
 6月24日(日) ホワイトキャンパス、ベリー会  
 イベント「ひきこもり・不登校の先にあるもの」  
 6月24日(日) オープンスクール「がっこう」を語ろう!  
 宇都宮・オリオン通り(手塚)  
 6月25日(月) 発達障がい支援者連絡会(第17回)  
 6月26日(火) 校長会で講話(手塚) 栗山・日向公民館  
 7月3日(火) なんにわ映画会「パイレーツオブカリビアン」  
 7月12日(金) 法務局へ理事変更の届け提出  
 7月14日(土) 第16回 理事会  
 7月22日(日) ブーメラン、紙トンボ(カブスカウト)  
 7月29日(日) 元気UP ナチュラル・プロジェクト2007  
 8月1日(水) 花火見物(「まにまに工房」にて)  
 8月12日(日) バーベキュー会(「まにまに工房」と合同)  
 8月16日～19日 ホテル・あさや「サイエンス・パーク」に協力  
 8月17日(金) 講話「思春期におこりやすい心の病気」  
 健康福祉センター 自治医大 塩川先生(村上)  
 8月19日(日) ワカモノフェスタ実行委員会(沼尾、吉成、加藤)



「川むしたんけん隊」で観察した生物たち。

### 発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。それぞれの立場での意見や悩み、助言などの意見交換、他地域の先進的な取り組みの紹介もあります。今年度、市教委に所属する臨床心理士の参加をいただき、参加者が発達障がいについての知識を深めるような場所にもしていきたいと思えます。どなたでも参加自由の会です。気軽にご参加ください。(西尾・白井)  
 連絡先: 日光市民活動支援センター  
 (電話:0288-22-2271)



### 拡大理事会+「三味線&漫画コラボライブ」のお知らせ

9月1日(土)の定例理事会はは会員の交流、意見交換をかねて午後1時30分から約1時間、報徳会館で開催することにいたしました。どうぞお気軽にご参加ください。会への要望、提案などをお待ちしています。終了後、会員であり、居場所のスタッフでもある沼尾忠宏さんの「しゃみまんが」演奏を行います。

(「しゃみはなが」は会場の都合で、残念ながら実施できません...) 演奏時間: 午後2時30分～3時  
 定例理事会は原則として奇数月第1土曜日、午後7時30分より、日光市民活動支援センターで行っています。以下、「下野新聞・県内ニュース(2007/08/12)」より転載(写真も)

文星芸術大美術学部マンガ専攻助手の増田洋蒼(ひろよ)さん(25)と同専攻二年、沼尾忠宏さん(22)は、今年から音楽と版画のコラボレーション「しゃみはなが」を行っている。三味線に合わせて版画を制作する芸術パフォーマンスで、既に三回実演。作品は美術展にも入選しており、「依頼があればいろいろな場所でやりたい」と開催場所を探している。しゃみはながは増田さんが版画、沼尾さんが三味線を担当。増田さんは埼玉県出身で、同大油画専攻を経て助手に。版画は油画専攻時代の授業で学び、「油絵より向いている」とのめり込んだ。沼尾さんは日光市在住で、三味線は高校時代に独学した。共に「版画で描く漫画」「漫画に三味線の音を重ねた映像」などを制作、授業にも生かしている。版画と三味線のコラボは「違うものをぶつけて、どんな結果が出るか見たい」と二人で企画。静かな作業が多い漫画を専攻する反動として「人前で『爆発』したい」との思いもあったという。地元の風景や動物などをモチーフにした未完成の版木を彫り進める。その後、三味線の音とともに水彩絵の具を時に豪快に、時に繊細に塗り、和紙に刷り上げて完成。「スタジオで練習すると絵の具で汚れ、アトリエでの練習は音がうるさい」という苦労もあり、ほぼぶつけ本番だ。四月にジャスコ今市店、五月には同大とオリオン通りで実演した。実演を通じ完成させた版画「ヌマキリン」が、富山県南砺市主催の「第四回棟方記念版画大賞展」に入選、九月二日まで同市の福光美術館で展示されている。九月に日光、十月には同大「北斗祭」でライブを予定。

## 特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

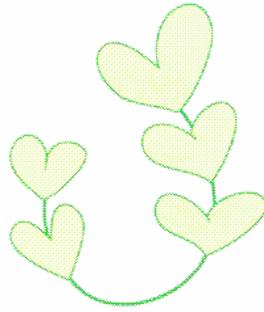
〒 321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください

<http://www.nantonakuno.net/>



## 私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

## 現在の会員数

正会員：32、賛助会員：12

団体会員：3 入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

会員の継続をよろしく願います。

## こんな本はいかが？ その1

「私のおすすめ本」を紹介するコーナーです。

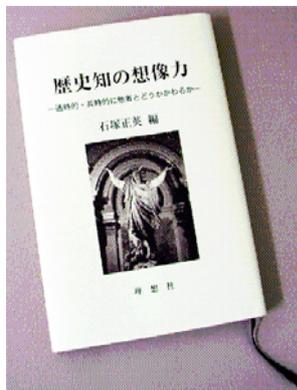
第1回はなんとにわ居場所スタッフ、県内各地の「若者の居場所」などのイベントで活躍する加藤敦也さんが著者として参加している近刊本。

石塚正英編 (理想社 2007年刊)

## 『歴史知の想像力 - 通時的・共時的に他者とどう関わるか -』

歴史知は近代知＝理性知、科学知優位の現代の状況の中で、傍流に追いやられた感性や日常に根ざす経験知を価値として見つめなおし、前者と後者の交互の運動の中で生み出される知の体系を考える概念である。例えば、石塚氏の説明によれば、算数の授業で習う正方形や立方体、直線や曲線は理論的に想定できても、現実には存在し得ないバーチャルなものだとされる。これが科学知である。他方で現実世界に存在するくましかく(ex.角砂糖とか)なものは生活知・経験知で、ここからみれば生活知から科学知が成立している。そのはずなのに、科学知が成立するとそれが生活知を規定する。この関係を見直してみよう、というのが歴史知である。現実を見れば我々は完全に科学的に思考しているわけではなく、むしろ感性的に思考しているのだが、科学という思想が人間性まで規定するような世界(優性思想、障がいの基準など)に生きている。その視点を変えてみよう、という試みであるとも言える。もう一つ例を挙げよう。今では地動説が当然の如き常識として語られているものの、それでも「朝日が昇る」といった表現のように依然として天動説的なモノの見かたも好まれている。そういう生活知(天動説的な)の価値も見直しつつ、科学知と生活知の交互運動の中で知を考えよう、というのが歴史知の探求であり、本書の目的でもある。

今回のテーマは関係性である。本書の中では、第三章「犠牲者のことを、その味わった苦しみを共にしつつ、忘れずにいるということ-フランクフルト学派における神学をめぐって-」がハーバーマスのドイツのホロコーストについて触れた文章に触れながら、犠牲者の苦しみを忘れないということ(＝感性的なもの)の中に、論理的な理性には翻訳不可能な共同の関係性に向けた新たな可能性がある、と言っている。



この「論理的な理性には翻訳不可能な関係性」が歴史知的な関係性のテーマである。私(加藤)も不登校と言う事例から苦しみの中から出てくる新しい協同性に着目して執筆している。個と個が分断される状況を感情的な結びつきから考え直す(国家に集約される情緒的なナショナリズムとは異なる)ものである。不登校という現象については公的な言説空間の中では、未だに個人や家族の責任とされ、個人的な克服課題とされることが多い。しかし、実際に不登校を体験する当事者や家族のライフストーリーから見えてくるのは個人の問題というレッテルを貼られることによる苦しみである。地域社会が崩壊し、家族が分断され、直接に社会的な眼差しの中で規定される状況にあって、当事者の家族は苦しみの共有から新しい価値を構築する。不登校を肯定的なメッセージとして読み替えてきたのは、そのような協同性を構築してきた親の会ではないか、というのが趣旨である。そこから見えてくるのは、むしろ社会的に自明視された核家族規範の限界なのである。総じて歴史学、哲学、社会学など人文社会諸科学が分野を越えて書いたもので、近代的な知のありように疑問を持っている読書子にはうってつけの本だと思われる。(加藤敦也)

## なんとなくのへや

7月発行の予定が延びのびになり、ついに8月末になってしまいました。発行が遅れてしまったことをお詫びします。今年の暑さには参りましたが、エネルギー問題、環境問題など、自然と人間の関わりを、自分の「感性」で考えてみる考える良い機会なのかもしれません。

(T)